

龍谷の教育

No.164

2023.Winter



〒840-0054 佐賀市水ヶ江3-1-25 電話 0952-24-2244 FAX 0952-24-3828 URL <https://www.sagaryukoku.ed.jp>



ダイバーシティと
インクルージョン教頭
原田 淳

近年、ダイバーシティというフレーズをよく耳にします。これは、ラテン語に起源を持ち、多様性を意味しますが、集団において年齢・性別・人種・宗教・趣味嗜好等、様々な人たちが集まった状態のことを指します。これが成り立つには、インクルージョン（受容）が欠かせません。つまり、単に多種多様な人材が集まっているだけでなく、考え方の違いや個性（特性）を互いに理解しながら、ともに成長できる環境を構築することが必要なのです。企業や学校といった各組織において、このような環境が構築できれば、組織の活性化に繋がると信じています。

本校には、中・高合わせ775名の生徒が在籍しています。当然、その生徒一人ひとりには個性があり、次世代を担う人材の宝庫であると考えています。童謡詩人、金子みすゞさんの詩に「みんなちがってみんないい」という一節があります。人は誰でも他者を羨むことがあります。自分にはないものを持つていること。また、すべての命はあるがままで尊い存在であることを伝えていきます。そして、それぞれが命の輝きをもって生き抜くことを願われている作品だと思えます。これは、親鸞聖人が大切にされた經典の一つ、仏説阿彌陀經に通ずるところがあります。「青い花は青い光を、黄色い花は黄色い光を、赤い花は赤い光を、白い花は白い光を放ちながら美しく咲き誇っている」一人ひとりが自らいただいている尊いものに気づき、その個性を光り輝かせることがすばらしいことだと説かれています。その輝きがお互いを照らして微妙な色合いを織りなすことにより、全体としてすばらしい色合いを放つことが理想

の世界であると論されているのだと私は思われます。これは、まさにダイバーシティとインクルージョンの考え方に合致します。800年以上も前に、釈尊が説かれた仏説阿彌陀經の意義に気づかれた親鸞聖人には、敬服いたしますばかりです。

中高生といえば、まだまだ未熟で、心身ともに発展の途上にあります。そういった生徒たちが、クラスや学年、部活動といった集団において、ともに喜び、失敗もしながら活動しているわけです。中には、何らかの諸事情を抱え、他者の理解とサポートを必要とする生徒もいます。卒業生の一人に、高校入学後自身の障害表明をクラスの生徒に行い、障害に対する理解を求め学校生活を送った生徒がいます。表明の際、支援員の方から自閉スペクトラムについて説明されましたが、同じような障害を持つ著名人の紹介もなされ、障害は個性であることと強調されました。その後の三年間、生徒たちはしっかりと理解し対応してくれ、また、クラスの生徒だけでなく、徐々に学年全体の理解と協力も得ることができました。該当生徒は3年後、4年制大学への進学も果たし、一人暮らしをするほど逞しい人間に成長してくれました。人間的に大きく成長できたのは該当生徒だけではありません。個性を理解しているとはいえ、イライラすることが度々あったと思います。その度に自身の感情やそれに伴う行動をコントロールし生活できたのです。広い視野で温かく見守るといった心にゆとりのある生徒が多数存在するほどに成長できた学年だったと思えます。この経験は、社会に出ても大いに役立つものであり、ダイバーシティとインクルージョンが成立した良い事例ではないでしょうか。

組織や自身の目標に向かって活動する上で、よりよい人間関係を築くことは欠かせません。また、心にゆとりが持てれば自身の強さや他者への優しさにも繋がります。ダイバーシティとインクルージョン成立の鍵は、人の内面的部分が大きく左右するとともに、先見性と視野の広さを兼ね備えた人材が求められていると思います。

「違いは、間違いではない。相手が間違っていると思えば、2022年2月24日、ロシア連邦がウクライナへの軍事侵攻に踏み切りました。ソビエト連邦が崩壊した後の両国が築いてきた関係の中で生まれてきた多くの複合的な問題が、話し合いで解決できないと判断したからだと思えますが、ロシアが人命を軽視し、武力で一方的に自国にとつて都合のよい現状へ変更しようとする暴力的な行動をとったことが残念でありません。

私たちは自らを基準として物事の善し悪しを判断してしまいがちです。ですから争いが絶えないのです。歴史に残っているすべての戦争、今回の軍事侵攻にも当てはまる側面があると思えます。

世界中の誰もが納得できる物事の善し悪しの基準を作ることができれば、戦争のない世界にしていけることができるかもしれません。中々そのようにはいかないことを今までの歴史が物語っています。では、どのようにすれば戦いのない平和な世界にしていけることができるのか？私は、「共生社会・多様性・寛容」という言葉がキーワードである、SDGsの理念を大切に行動に移していくことだと思えます。2015年に国連でロシアも賛成し全会一致で採択された、地球が持続可能であるための開発目標であるのですから世界がもっと本気になり取り組んでいくべきです。しかし、各国が都合の悪いことは協力せず、自国の利益を優先する結果、世界の安定した秩序を守っていくことができない現状があり、国連安全保障理事会や核拡散防止条約（NPT）が機能不全に陥ってしまっていることが心配でなりません。

仏教では、相手を思いやる気持ちのこころを「慈悲」といいますが、その心は、苦しんでいる人に寄り添い、話を聞いた

同朋

り、励ましたりする行為としてあらわれ、慈悲の心を大切にできない社会は、共生社会にはなり得ません。そして、多様性とは、寛容、討論（対話）という過程を通して、多数者（強者）と少数者（弱者）の意見を対等（平等）に扱い、少数意見を受け止める、マイノリティーを大切にしていこうということだと思えます。浄土真宗の大切な經典である『仏説無量寿經』には、「宮・商、自然にあい和す」（違う者同士が、お互いを邪魔することなく調和して美しい音色となる）、『仏説阿彌陀經』には、「青い蓮は青い光を、黄色い蓮は黄色い光を、赤い蓮は赤い光を、白い蓮は白い光を放ち、いずれも美しく、その香りは気高く清らかである」（意識）と説かれています。これは仏教が多様性を認める教えであると受け止めることができ、仏教とSDGsには親和性があるように感じられます。

争いの根本には「私が正しい、相手が間違っている」とする独りよがりな言動が見受けられることが多くあります。自分の周りにもあるものすべてが、思い通りにならないと気がすまないのです。しかし、私たちは生まれた国や家庭、そして、その文化、歴史、生活環境、習慣など違うことから物事の見方や考え方もそれぞれ大きく異なります。この2つの經典で説かれているように、お互いに相手を認め合い、それぞれが美しく、気高く輝けるようになっていけば、争いのない平和な世界としていけると思えます。

今後、ロシアとウクライナの戦争がどのようになっていくのか分かりませんが、世の中すべての人が安穩に暮らせる日が一日でも早く訪れてくれることを願っています。

（文責 長田 信一）

海と日本プロジェクト—地域と川の清掃

9月22日（木）夏の暑さの残るなか、普段からお世話になっている水ヶ江周辺、お堀、校内を流れる川の清掃を第1学年全員で行いました。まだまだコロナが終息していない状況でしたが、学年全員で行事が出来たことは、とても有意義で今後の学年活動につなげていきたいと考えました。

清掃活動を通して生徒は、
「身の回りをきれいにすることの大切さを学んだ。心がきれいになった気がした。」手嶋 陽輝（田代中）

「意外とゴミが落ちていてびっくりしました。綺麗な学校を保っていきたくて思いました。」坂口 紗愛（鹿島東部中）

「最初、ペットボトルぐらいしかないだろうと思っていたが、財布などが捨てられていてびっくりした。ペットボトルや空き缶など、なぜ普通に捨てることができるんだろう？と思った。これまでに私はゴミを道端に捨てたりしてないし、川にも捨てたりことはない。これからも、それを続けます。」田中杏美奈（鍋島中）

「掃除をする事でその場所を利用する人たちが気持ちよく使えたりするので、こういう清掃活動はとても大事な事だと思いました。公共の施設を利用するときなどはゴミのポイ捨てをしないで綺麗に使うことを気をつけようと思いました。」山口 紗愛（昭栄中）

最後に、清掃に際し、協力していただいた、株式会社エンターアイ様、佐賀市役所河川課様、ありがとうございました。（文責 紀伊）





パネル優勝した赤団のパネルはたった二人で描き上げたということで、会場にどよめきが起こりました。迫力のある画角でキャラクターの目力に射すくめられそうなパネルに仕上がりました。制作に携わった3年田中亮佑さん(城西中)と同じく3年濱本佑太さん(大和中)は、「二人で意見が対立することもなく集中して作業ができた。団員に色塗りの手伝いをしてもらい助かった。背景がとても大変だったが満足いく作品に仕上がった。微力ながら赤団の力になれてよかった。」と笑顔で話してくれました。(文責 北村)



コロナ禍のため縮小されていた龍谷祭でしたが、入場規制はあったものの今年度は調理を含め出店やステージ発表など、ほぼ完全体に近い形で龍谷祭が行われました。ステージ発表は書道部のパフォーマンスに始まり、吹奏楽部の演奏、各団のパフォーマンスや飛び入り漫才などが行われました。また3年生の出店は大盛況で、焼きそばにたこ焼き、かき氷やポップコーン、ドーナツなどまさに飛びように売られていました。お揃いの法被やクラスTシャツを着て楽しそうでした。



体育祭では、各団の力走や力を合わせての団体競技に汗しながらもすがすがしい一日を過ごしました。毎年工夫を凝らす各団の演舞は、どの団も素晴らしく甲乙つけがたいものでした。今年度は総合優勝青团、応援合戦優勝赤団、マスコットパネル優勝赤団という結果で幕を閉じました。これまでの準備や当日の運営、後片付けに至るまで、走り回って取り組んでくれた生徒会の皆さん、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。(文責 北村)



軽快な和太鼓のリズムにのって楽しい時間を過ごしました。芸術劇場は3年ぶりの開催で、生徒や教員も参加して大変な盛り上がりでした。(文責 北村)



10月27日の午後、佐賀市文化会館にて和楽器「あべや」による演奏を、中学校の全校生徒で鑑賞しました。

芸術劇場

部活動(二)

空手道部

令和4年度 全国高等学校総合体育大会空手道競技(8月17〜20日)伊予三島運動公園体育館

柔道

令和4年度 第72回九州高等学校柔道競技大会(6月19日)山鹿市総合体育館

剣道部

令和4年度 全国高等学校剣道競技・第69回全国高等学校剣道大会(8月5日〜7日)高知県春野総合運動公園体育館

水泳部

令和4年度 全九州高等学校体育大会 第70回全九州高等学校水泳(競泳)競技大会(7月16〜18日)アクアドームくまもと

弓道

令和4年度 佐賀県高等学校弓道新人大会(9月24日・25日)多久市緑が丘弓道場

陸上競技部

全国高校総体北九州地区予選会(6月16〜19日)SAGAスタジアム

ソフトテニス部

令和4年度 佐賀県高校生夏季ソフトテニス選手権(8月24日)SAGAサンライスパーク

テニス部

令和4年度 佐賀県高校生夏季ソフトテニス選手権(8月24日)SAGAサンライスパーク

女子バドミントン部

令和4年度 佐賀県高校生夏季ソフトテニス選手権(8月24日)SAGAサンライスパーク

男子バドミントン部

令和4年度 佐賀県高校生夏季ソフトテニス選手権(8月24日)SAGAサンライスパーク

自転車競技部

令和4年度全国高等学校総合体育大会自転車競技(6月4〜7日)高松競輪場・綾川町特設ロードレースコース

吹奏楽部

令和4年度 佐賀県吹奏楽大会(7月22日)佐賀市文化ホール

書道部

令和4年度 記念高野山競書大会(8月5日)

華道部

令和4年度 全国高等学校花道大会(9月5日)リモート

女子バドミントン部

令和4年度 佐賀県高校生夏季ソフトテニス選手権(8月24日)SAGAサンライスパーク

夏のオープンスクール、それぞれのプロローグ

8月に実施した「龍谷からはじまるマイストーリー～プロローグ夏～」には、たくさんの中학생、保護者の皆さんにご参加いただき、本当にありがとうございました。今年は新たな講座として、「来てみてびっくり企画」を開設しました。

「龍谷といえば??」と聞くと、「部活動!」「ICT!」「5プラス1!」のような答えが普通に返ってくるようになった最近ですが、やはり「龍谷といえば?」「心の教育でしょ!」ですね。宗教の講座を開き、浄土真宗にまつわるかるたをやったり、自分でお念珠を作成したりしました。みんな、色とりどりのお念珠を一生懸命作っていましたよ。

他にはやはり、龍谷が誇るICT教育を体験してもらったり、実際の授業や理科の実験をしたりなど、バラエティにとんだ講座を体験してもらいました。また、部活動体験では「我こそは!」というみなさんが集まってくださり、活気あふれる練習の姿が見られました。

忙しい時代だからこそ、情報があふれかえっている時代だからこそ、絶対に忘れてはいけない心の隅このゆとり。高校は自分を探し、自分をみつけ、そして自分をみつめる場所。それを実感してもらえていたら嬉しいです。それぞれの高校生のプロローグ描いてもらえましたか?

在校生も大活躍で、後輩になるかもしれない中学生に一生懸命接してくれました。

お忙しい中、龍谷高校へご来校いただきましたこと、またオープンスクールをご紹介いただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



教育相談室より

今年も教育相談部は、常駐者2名と今年新しくスクールカウンセラーとしてお越しになられた高橋（タカハシ）幸市（コウイチ）先生と3名さらには教育相談部員6名の計9名で活動を行っております。

昨年、一昨年も新型コロナウイルスの感染予防を常に意識しながら、窮屈な学校生活や家庭生活を続けてこられたと思います。しかし、競技種目を減らしての体育祭や1年ぶりに文化祭が行えたことで、活気ある龍谷祭になるように生徒会を中心に開催できたことは、少しずつですが普段の学校が戻ってきたようにも感じました。また、久しぶりに全校生徒が一つとなって何かを行えたことは、龍谷にとっても、とても有意義で価値あるものになったのではないのでしょうか。

さて、2学期が始まりましたが、夏休みが終わって、1学期みたいに学校に適應しなくてはいけないなど焦る心理的な緊張（“気を張る”とか“ことさら頑張る”とか）が、もたなくなってきた、やる気が次第に失われ、学校生活への意欲が低下している方もいることでしょう。疲労すれば一時的に小休止することはペースを整えるという意味ですごく良い事ですし、できることなら予防的に、疲労ややる気が失われてきたことに気づいた段階で、一人でなんとかしようとせずに誰かに相談してみる方法などは、とても良いやり方だと思います。自分一人でなんとかしようとすると、通常“我慢する”方法を行いがちです。すると、多くの場合困難を抱え込んでしまって身動きが取れなくなる方もいますので、どうか一人で抱え込もうとせずに誰かに相談することを大切にしてください。

龍谷中学校・高等学校の教育相談室は、経験的に心理的な負担感が軽くなるようにスクールカウンセラーの高橋先生や養護の井上先生らにお願いして、週に1日ずつ希望者の生徒や保護者のカウンセリングを行っております。一人で悩み、袋小路にはまり込まないようにしたり、いろいろな可能性を探る自由さを手に入れたりと利用した方々からは、『また相談したい』と再びカウンセリングを受けられる方もいらっしゃいます。

また、教育相談室に許可をもらって登校している生徒らは、タブレットのソフトフェア『Teams』を活用して、教室の授業をリモートで教育相談室にしながら受講している教科もあります。何とか生徒の学ぶ意欲が止まないように、教職員一同、生徒の皆さんと色々な面で共に学んでいきたいと考えております。

（文責 山崎）





龍谷SDGsなう



『龍谷中学校高等学校SDGs行動憲章』4つの柱に基づき、SDGs推進教育を行っています。(文責 徳森)

柱① 持続可能な社会を創造できる人を育成する教育を提供します
ターゲット4.6、4.7、13.1、16.1



Creekable〜クリークを裏から表へ〜 7月30日

クリーク企画第一弾を松原神社北側で行いました。佐賀クリークネット代表川崎康広さんからカヤック・サップの手ほどぎをいただき、『街中でのクリーク遊びができる佐賀』を知ることができました。川崎さんに「まずは自分自身が楽しむこと。佐賀って最高と思える経験こそがSDGs」とお話しいただき、生徒たちはそれを実感できたようです。



- ・初めてカヤックはとても楽しかったです。川が急な流れでは佐賀だからこそできる経験で、改めて佐賀の良さを知ることができました。**佐藤春菜さん (②龍谷)**
- ・川崎さんがおっしゃっていた通り私たちがカヤックなどをして、通りかかった人が興味を示してもらうことで住みやすい街だとアピールすることになるということを学びました。乗りたいと近づいてきた子供が可愛かったです。今後も佐賀の魅力を多くの人に伝えていきたいです。**廣本 隼さん (②龍谷)** (文責 徳森)

龍谷総合学園「仏教×SDGs2022」に参加しました!!! 8月22日

今年も全国の龍谷総合学園高校生がオンライン上で集結しました。仏教的視点「自省利他・如実知見」を組み込みながらSDGsについて、自分たち高校生ができることを考えました。15校が3校ずつの5グループに分かれ、「食」をテーマにして協議に入り、それぞれ事前に準備した意見を出し合いました。本校は北陸高校・崇高高校とともにフードウェイスト・地産地消・食品を無駄にしない食器や調理方法等を考えました。

本校からは、服巻貴也さん (②佐大附属) が参加しました。研修会前にフードロス大作戦を内田早紀さん (②佐大附属) と行い、「廃棄量の多い食品に目を向けた調理試作」を発表しました。2人は今後、特別進学コース2年生で行っている「平和×食」をテーマとした活動でも今回の協議を生かしていきたいと語っていました。



フードウェイストを考えての試作



オンラインでの発表・協議



《感想》

- ・食糧問題は日本の大きな課題の一つです。特に廃棄量の多さは世界の中でもトップです。そこで、私たちは食品ウェイストを減らすべく廃棄率の高い野菜をどうにかして食べられないかと試みました。トウモロコシや枝豆の廃棄率は50%にもものぼります。普段、食べないトウモロコシの芯や枝豆の皮を食べるのは苦難で試行錯誤しながら調理しました。今までしたことなかったことに挑戦し、結果オーライとは言えませんが、さらにユニークなアイデアで新たなチャレンジをしたいと思いました。未来を担う私たちが、「今」をより良いものにしていきたいと思えます。**内田早紀さん (②佐大附属)**
- ・今回の「仏教×SDGs」の活動を通して食品ロスの削減の大切さと実行の難しさを感じることが出来ました。交流会では色々なアイデアを共有できて面白かったです。協議では、食器の工夫や昆虫食、食品廃棄物の活用案など興味深い意見が多かったです。しかし、私たちが今日からできるような案があまり出せなかったのが心残りでした。今回の活動で終わりではなく考え続け、行動することが必要だと実感しました。**服巻貴也さん (②佐大附属)** (文責 徳森)

「挑戦する力」 未来を切り開く!!

龍谷 中学校

中高一貫 理数グローバル

社会とつながり、将来を見据える！

2年生、職業体験

7月26日(火)～28日(木)、2年生が5グループに分かれて、職業体験を行いました。

これに先立ち、生徒のみなさんは、コロナ禍であることを考慮して、まず、どのような取り組みができるのか、企画立案から活動を始めました。

今回、企業5社のご協力を得て、生徒と担当者のみなさまが事前打ち合わせを重ねました。ここで力を発揮したのが、iPadです。生徒は教室にいなながら、各企業とリモート会議を行い、与えられたテーマに沿って話し合いを進めたり、情報共有を行っていました。これまで学んできた知識や技術を駆使してたくさんアイデアを出している様子が印象的でした。

中には、事前学習として現場での体験をさせていただいたグループもあり、働くことの大変さ、おもしろさ、まごこれからの課題などを学ぶ貴重な機会となりました。

(文責 森)



「みんなの笑顔を守るために」

第44回少年の主張佐賀県大会

8月27日(土)、「第44回少年の主張佐賀県大会」がアバンセにて行われました。

佐賀県内から応募された作品より予選審査を通過した10名の中学生が、日ごろ考えていることを真剣に、そして感受性豊かに主張しました。



本校からは古賀凜さん(②春日)が出場し、優秀賞(2席)を受賞しました。

「みんなの笑顔を守るために」と題して、自身が実践した2回の「ヘアドネーション」と国外へのランドセルギフトを紹介しました。「人のためと思っ

(文責 徳森)

佐賀青年会議所と連携協定を結びました

7月12日(火)、本校(校長室)にて、佐賀青年会議所と連携協定の調印式を行いました。

昨年よりSDGs教育や職業体験など、さまざまな面で青年会議所のみなさまにはお世話になっていました。連携協定を結ぶことで、今後は地域・町おこし活動への共同参加、起業家教育、国際的理理解教育などさまざまな活動でご協力いただくこととなります。

(文責 松尾)



青春全開!! 舞う、走る、跳ぶ、笑う

中高合同体育祭

9月9日(金)、本校グラウンドにて中高合同体育祭が、コロナウイルス感染症対策熱中症予防に配慮して執り行われました。

3年生リーダーを中心に、夏休みからダンスや演舞の練習を行ってきた生徒のみなさんは、高校生が見守る中、元気いっぱい、笑顔いっぱい、一致団結した姿を披露しました。高校生の拍手や声援に勇気づけられ、いつも以上に一人ひとりが輝く、充実した体育祭となりました。

(文責 松尾)



受賞、おめでとう!

◆佐賀県中学校総合体育大会剣道競技

(7/24)

男子団体 3位

- 荏限隼人(③西牟田)
- 奥山晃英(③大草野)
- 松尾巨亮(③壺川)
- 平田謙心(③思斉館)
- 川内丸太一(②千代田中部)

◆第56回全国道場少年剣道大会(7/29)

パート 3位

- 荏限隼人(③西牟田)
- 松尾巨亮(③壺川)
- 平田謙心(③思斉館)

◆第24回中山杯争奪剣道大会(9/23)

女子団体 優勝

- 石橋杏愛(②北明)
- 實松久玲愛(②千代田西部)
- 山崎杏南(①西与賀)
- 新田有珠(①豊原)
- 豊増紗奈(①鹿島)

優秀選手賞

- 石橋杏愛(②北明)

◆第58回和道流空手道連盟全国大会

(9/11)

形中学生女子 個人戦

敢闘賞

- 小島彩瑛(①佐大附属)

◆第56回弘法大使奉賛高野山競書大会

(8/5)

- 銅賞 篠崎姫花(②新栄)
- 褒状 古賀凜(②春日)

◆第73回太宰府天満宮七夕揮毫大会

(9/4)

- 銀賞 篠崎姫花(②新栄)

◆第72回佐賀市理科作品展覧会(9/15)

- 入選 栗田桜雅(①中原)
- 入選 大橋美和(①開成)

◆第25回人権意識高揚のための標語コンクール(7/19)

- 佳作 山崎杏南(①西与賀)



龍谷中学校・龍谷高等学校の皆さんへ

受験モードに入った高校3年生、早い段階から進路について考えている高校2年生、1年生、中学生に九州龍谷短期大学のご紹介です。九州龍谷短期大学は人間コミュニティ学科、保育学科の2学科を設置している短期大学です。更に人間コミュニティ学科はデータサイエンス・心理、メディア、仏教の3つのコースに分類され両学科ともに特色ある分野を学ぶことができます。

2021年4月より独自の給付型奨学金がスタートしました。この制度により龍谷高等学校出身者は2年間で48万円の給付を受けることができるようになりました。返還は不要になりますので、経済的負担も少なくなります。又、龍谷高等学校出身者は入学金10万円を免除致します。四年制大学への編入も可能ですので、進学を考えている方は是非進路の選択肢に入れてみてください。併願先としての受験も大歓迎です。

九州龍谷短期大学
 鳥栖市

学園だより



九州龍谷短期大学の公式Instagramをご存知ですか？
普段の学生の様子やオープンキャンパスの様子、入試情報など様々なお知らせをお送りします。



佐賀龍谷学園が設置する学校（短大・高校・中学）に、兄弟姉妹が二人以上在籍する場合、二人目以降のお子様の入学金が減免されます。詳しくは、各学校事務室までお問い合わせください。

幼保連携型 認定こども園

九州龍谷短期大学附属
龍谷こども園

- ◎2023(令和5)年からの入園受付開始(令和4年11月1月～)1号園児はこども園へ、2・3号園児は市町へ申し込みます。
- ◎毎週火曜日に未就園児を対象とした「子育てサロン」を開催しています。

メニュー ①折り紙教室 ②看護師さんのお話 ③粘土遊び ④音楽遊び ⑤サッカー場で遊ぼう など
完全予約制(コロナ対策のため)です。ぜひ、こども園までお越しください。

こども園で楽しんでいきます！



先生たちと一緒にこんな遊びができるようになりました。



寒天ゼリー遊びをして、手の感触を楽しみました。



お弁当をみんなで食べました。



10月はいよいよ運動会。つばめ組・ひばり組・ひよこ組は、運動会の練習に取り組んでいます。「みんな、がんばれ！」